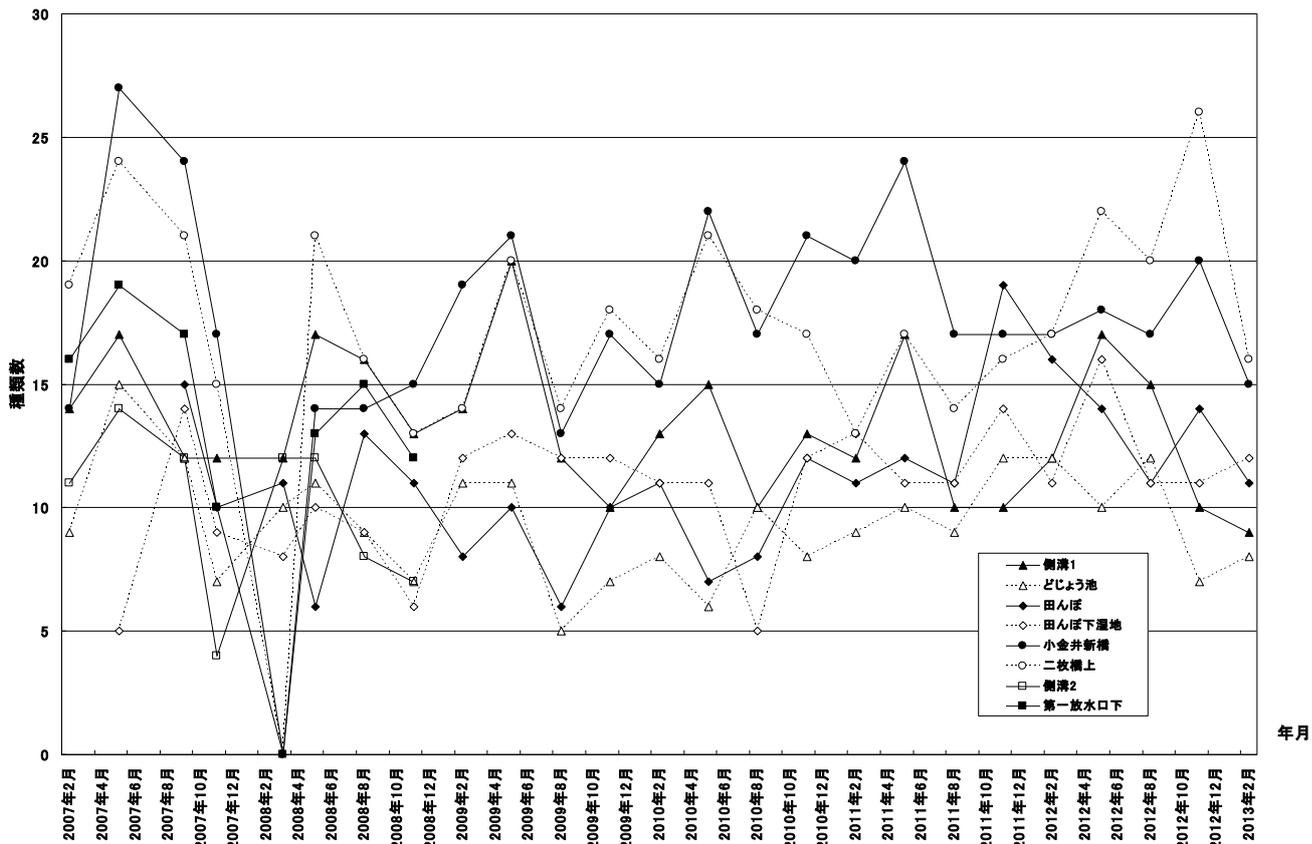


## 自然再生事業 水生生物モニタリング結果

### 要約

- 2012 年度の種類数は、ほぼ平年レベルだった。野川本川の種類数が調節池に比べてやや多い傾向も例年通りであった。個体数も平年レベルだったが、2012 年 5 月に側溝 1 でイトミミズが、2012 年 11 月に小金井新橋でミナミヌマエビが、それぞれ約 500 個体と多く採集された。
- 2008 年 3 月の渇水時に種類数・個体数が大きく減少した(特に野川本川)。
- 田んぼ下湿地では、種類数・個体数が少ない傾向にあったが、2009 年 2 月以降、やや増加した。
- どじょう池では、種類数、個体数ともに少ない傾向にある。
- 田んぼでは、イトミミズやユスリカが多いときがある。
- 小金井新橋と二枚橋上では、ミナミヌマエビが多いときがある。
- 調節池内の水域で止水性昆虫(アメンボやマツモムシの仲間、アカネトンボの仲間)がしばしばみられるようになった。
- 2009 年 8 月と 2012 年 8 月に側溝 1(湧水の流入場所)でホトケドジョウが採集された。側溝 1 では、オニヤンマのヤゴもしばしばみられている。
- 2011 年 5 月、小金井新橋でヒメミズスマシが多数採集された。
- 2011 年 8 月と 11 月にはどじょう池や田んぼ下湿地などでグッピーが採集された。震災に伴う節電で飼えなくなったものを放流したものと思われた。グッピーは多数繁殖したが、水温の低下とともにいなくなった。グッピーは 2012 年度にもみられている。
- 近年、多摩川から溯上してきたと思われるスミウキゴリ(ハゼの仲間)がみられている。
- 2013 年 2 月にどじょう池で低水温を好むアブラハヤがみられた。国分寺から流下したか放流されたものと思われる。
- 全体としては、きれいな水を好むもの、汚れた水でも生息できるもの、止水を好むものなどいろいろな生物が生息しており、環境の悪化はみられていない。

種類数の経年変化



個体数の経年変化

